

令和4年度 第7回タウンミーティング

能美市町会連合会とのタウンミーティング

日 時 令和4年9月22日(木) 15時～16時30分

会 場 寺井地区公民館 大ホール

参加人数 69人

1) 開会

2) 能美市町会連合会会長 ご挨拶

3) 市長 市政報告

○はじめに 演題「インクルーシブのみ」

- ・インクルーシブという横文字は、仲間外れにしないです。地域共生社会という、今能美市が目指している言葉です。今日はこの「インクルーシブのみ」という題材で、市政全般を皆様方にご紹介をさせていただきたいと思っておりましたが、8月4日に大雨が降った。
- ・今日は大雨の事態や、新型コロナウイルス感染症のことも含めてお話をさせていただきたい。

○8月4日の大雨について

- ・まずは被災された皆様方にお見舞いを申し上げたい。当日朝5時8分に土砂災害警戒情報が発令されました。市内で色々なところが冠水をし、農業の被害も大変大きかった。頭首工が15ヶ所壊れ、イノシシの柵も1キロにわたり倒れた。
- ・史跡名勝では、鍮水観音も土砂で埋まり林道も大きな被害があった。蟹淵への道も土砂で現在埋まっている。
- ・市内でも多くの地域で冠水があった。住宅では、全壊が1件、半壊等を含めて住宅では119件の被害が確認されている。罹災証明書の件数なので、実際被害に遭われた方はもう少し増えるのではないかと思う。農地農業施設で土砂が流入したのが12ヘクタール。冠水したものが20ヘクタールになる。
- ・大雨警報と土砂災害警戒情報が流れる時間差は、これまでは5時間くらいであったが今回8月4日は、大雨警報の50分後に土砂災害警戒情報が出た。8月5日は警報の20分後に土砂災害警戒情報が出た。まさに過去に経験したことのない大雨だった。

・市では大雨警報が出た後パトロールを行い情報収集を行った。そのあと部局長以上を招集する災害警戒態勢会議があり、現在の状況と今後の大雨の予報を見て、鍋谷町と寺畠町に避難指示を発令し、避難所開設を行行った。

・12時には市内全域に自主避難を案内し、最終的には市内3ヶ所に自主避難所を設けた。このときに各町会・町内会でも公民館や集会場に一時的に避難をしていただいた町会町内会もあり、改めて皆様方のご支援等ご協力に感謝を申し上げたい。

・やはり避難所を市内で数か所開設しても、高齢者の方は自分の足でその市が作った避難所までは行けない。また近所の方々と一緒にいたいという思いの中で、町会や町内会の公民館に寄られることで安心される。それから、今後大きな災害が起きそうもないってなったときでもすぐに戻れるというそんな安心感もあるのではないかと思う。

・市もいろいろな施策を行った。緊急の窓口を8月4日後の土・日曜日設けた。例えば床上床下浸水されたご家庭に消毒をするセットをお貸ししたり、排水ポンプを使いたいという方等々にもそんな窓口を設けたり、罹災証明を手続きができる窓口も開設した。様々な手続きが一か所でできるワンストップ窓口も開設した。

・社会福祉協議会の中にボランティアセンターを作っただき、いろんなご支援をしたいという方を受け付ける窓口を設けさせてもらった。たくさん災害ゴミが出るが、美化センターまで持っていくのは大変だということから、市内3ヶ所に災害ゴミの臨時集積場も設けた。また市の職員が市内の状況をパトロールし、どれだけの被害が出ているかを確認している。

・その後、被害の状況に合わせた支援メニューの内容や、被災された方はこんな手続きをしてくださいということをわかりやすく伝えられるように、支援制度を一覧表にしてホームページでお伝えしたり、防災行政無線等等を使って、いろんな情報を皆さんにお伝えをしてきた。

・西川・鍋谷側は、国や県が管理をしている河川のため、市単独でなかなかできないこともあり国や県に要望活動に出かけ、馳知事、岡田大臣、佐々木大臣、宮本政務官にも視察に来ていただいた。私も馳知事のところにも行き、岡田大臣にもお伝えした。それから、国土交通省の政務官西田さんの所へも行き、いろいろ計画をしていただいていることを前倒しでやってもらえないか要望もさせていただいた。

・9月1日から能美市議会の第3回定例会が始まった。議案予算というのは、最終日に承認をいただくのが通例であるが大雨被害だけは初日に提案をして、議決をいただきすぐに取り掛かれるようにした。総額で5億9300万円、例えば全壊をされた家には最大で300万円の支援金や、床上浸水した住宅には見舞金として15万円などの施策や、復興復旧に係る予算を上程させていただいた。

・先ほど農業の被害が大きいと申し上げた。冠水した稲には消毒が必要です。その消毒をするため、ドローンを使われたいという方がいらっしゃれば、購入する費用の一部を市が負担する施策や、土砂が流入した田んぼ、頭首工が壊れたのを復旧させるための費用も盛

り込んでいる。

・エリアが広く被害も大きいためなかなかすぐには復旧復興は成しえないが、必ず原状復旧させることを念頭に、費用や時間がかかってもやっていかなければならないと思っている。

・防災減災にも取り組んでいきたいという思いもしています。現状復帰だけではなく、次の災害が起きないための予算も含んでおり、適宜適切に進めて参りたいと思う。

○新型コロナウイルス感染症について

・昨年の12月までは感染される方は高齢者が多かった。今年に入り40代以下の方の割合が85%になりました。この要因は、おそらくワクチンの接種だと思っている。

・ところが、オミクロン株に変わってきたら、年代に関係なく感染が広がっている。そう言うものの、40代以下の方が多いが、全体的に感染が多くなっている。

・オミクロン株対応のワクチンが間もなく届きます。現在第11弾のお知らせを送付する準備をしていますので、そちらで接種時期をご確認いただきたいと思う。

○施策方針、課題について

・能美市では7つの施策と新型コロナウイルス感染症の対応ということで取り組んでおり、全ての施策が移住定住の促進に繋がるよう取り組んでいる。

・自治体の勢いを図る指標は人口だと思っている。人口が増えるには自然増と社会増があり、この二つを目指して色々なことをやっている。ただ我々市の職員だけでやれるものではなく、市民力や地域力、ふるさと愛の醸成が大切だと思っている。社会増のために子育てや住環境を充実させ、自然増のために健康寿命を延ばそうと取り組んでいる。

・高齢者を含む世帯数が年々増え、高齢の単身世帯も増えている。要介護や要支援者も増えてきている。また自然災害や事故事件、防災減災などいろいろな課題もある。企業誘致が好調であり2023年までに新たに1000人の雇用が生まれるが、その人員をどうやって確保していくかも課題となっている。

・感染症対策や、市内の11の小中学校の内、築50年が35%を占める。保育園は少しずつ新しくしているが、児童館やCC館、公共施設の建物もだいぶ古いので、どうやって新しくしていくかも大変大きな課題です。

○デジタル技術の活用について

・地域共生社会を目指す能美市にとって課題を解決するために、デジタルの力をどんどん導入して解決していこうと取り組んでいる。例えば公共交通のみバスでは、ダイヤやルート、またバスの混雑状況や、あと何分で来るかということもスマートフォンで確認でき、学校ではGIGAスクール構想として、生徒全員タブレットを使い授業をうけている。また、防災減災救急では最新のドローンや救急車、はしご車を導入している。

・行財政改革の一例としては、市議会ではペーパーレス化し紙でお配りしていたものを今デジタルでやっている。

・防災行政無線の多重化を進めている。LINEでの配信や受信機の改善、また屋外スピーカーの更新。固定電話から音声で確認できるようにしたり、ケーブルテレビ、ホームページでも発信をしていきます。ただ費用が大きくかかるため、最終的には2023年度の完了を目指しています。LINEの配信は2022年度中に準備が完了できるよう目指している。

・情報を全部一堂にまとめ、危機管理的な情報だけではなく、生活や観光、買い物情報など欲しい情報をワンクリックからツークリックで見れるようなサイトを作ろうと、取り組みを始めている。

○医療介護DX

・一人暮らしの方が多くなってきている。例えば、一人暮らしの方が体調が悪くなったのを近所の人が見つけ、救急車を呼ぶとする。救急隊はこの方の症状や病気、服薬の状況、連絡先を把握し病院に搬送しなければいけない。ところが、ご本人から確認できないという事態が今起きている。

・今は見守り安心マップで、民生委員さんが年に1回チェックしていただいているが、1年間は情報が更新されない。情報を事前にデータベースで管理して、必要なときに必要な情報だけ取り出せるようにしよう、ということをやっている。

・この事業は国のデジタル田園都市国家構想交付金に採択をされ、モデルケースとして鋭意取り組んでいきます。最終的には、緊急時、救急時だけでなく、日頃から医療のデータを管理する、病院に行かなくても診療を受けられる、薬が届くという、そんなシステムまでにしようという取り組みを始めている。

○子育てDX

・子育てにもデジタル技術を使い、例えば胎児期から、高校に行くまでお医者さんに行ったり、予防接種をしますが、データは全部途切れている。A医院に行くとA先生がカルテを書かれる。B医院に行くとB先生がカルテを書かれる。A先生とB先生っていうのは、カルテを共有していないため全部一貫通貫で管理できるよう、それをまず子どもからということで、取り組み始めている。

○インクルーシブシティ

・健康な方も、そして高齢者もお子さんも、障害をお持ちの方も外国人も全ての方が安心安全快適に暮らしていくというのが、地域共生社会であり、インクルーシブシティです。それをデジタルの力を使い進めていこうという取り組みがこのインクルーシブシティ構想です。

・デジタルだけになると、人と人とのコミュニケーションが希薄になってしまう。デジタ

ルと言っても万能ではない。やはり人のサポートがないと、中途半端になってしまう、いろんな欠陥が見えてくることもあり、人の力も十分に活用できるように、いろんな体制も整備していこうと考えている。

・最近の一つの家庭で複合的な悩みを持たれるケースが増えてきている。これまでは、いろんな部署を回っていただかないと、問題が解決していなかった。今後は総合的にバックアップする支援チームをつくって、それぞれの専門分野の人たちにチームに入ってもらい、それぞれの課題や病気を相談をしながら、対応をしていこうという体制を今整備している。デジタルの力だけではなく人の力も十分に活用しながら取り組んでいこうとしている。

・能美市はSDGS 未来都市に選定をされている。パートナーシップ制度、サポーターシップ制度と立ち上げ、現在75の団体や個人の方々に登録をしていただいている。SDGsの力も借りて取り組んでいきたい。

○施設整備について

・企業誘致の好調さから相乗効果を出すために、働いてもらう人に住んでもらいたい。また、能美市民が大都市圏から戻ってきたときのために宅地の造成を考えている。産業団地もさらに開発していきたいと考えている。

・幼保連携型こども園を、今回福島に初めて設けさせていただいた。辰口地区、寺井地区にも幼保連携型こども園を作ろうと計画している。

・給食センターの竣工や、2025年までに健康ロードの整備、またサンテや亀齢荘、根上学習センターや能美市九谷焼美術館の体験館もリニューアルを計画している。

・山口町に合奏墓を建設した。県外からこられる方が多いただろうということから、高速道路のインターチェンジに近く、空港や新幹線の小松駅からも近いという立地から、山口町を選択した。

○おわりに

・感染症が広がってきている中、根上七夕まつりや辰口じょんから祭りを開催するかどうか非常に悩んだ。実行委員会を開催をしたところ、開催のご判断をいただいて、感染症対策にも細心の注意を払い開催した。過去最高の人出となりたくさんの方々にお越しをいただいた。特に、小学生や中学生が多かったように思う。まさにウィズコロナ。そんな時代なのかなという気持ちを今持っている。

4) 意見交換

質問 1

【参加者】

・能美市立病院が何年か前に、全国のワースト 10 か 20 に入っていた。建て替えをして綺麗な病院にしてもらいたい。費用が掛かると思うがぜひやってもらいたい。

・新しい住宅地の造成も良いが、各町会に 30 件でも住宅地を作ってほしい。既存の町ならば生活面でも便利だと思う。それぞれの町に人口を増やせるような政策をとっていただきたい。高齢化世帯が増えている中で、民生委員や推進委員のなり手がいない問題もある。民生委員 1 人で、多くの世帯を見るのはとても大変。月に 1 回でも、看護師さんやお医者さんが回っていただけるとありがたい。各町会長さんが活動しやすい、あるいは元気になるような市政を行ってもらいたい。

【井出市長】

・市立病院ですが、以前そんな報道もありましたが現在だいぶ変わってきています。お医者さんを確保でき、現在、整形外科の先生が 2 名、常勤をしています。脳神経の先生も、内科医の先生もいらっしゃる。それから新型コロナウイルスに対応する病院にもなっています。その当時と比べるとだいぶ今、市立病院は変わってきました。その一方で病院舎が古いということは、ご指摘の通りです。これをどうしていくか、まず一つは財源の問題があります。それから場所をどこにするかという問題もあり、いろんな課題がございます。一つ一つ丁寧に確認をしながら、病院のあり方は検討していきたいと思います。

・既存の町会に宅地を設けたらということですが、実は私もそうしたい。ところが、ほとんど農振地で宅地造成ができない、という悩みから、他に場所を確保してやっていこうという思いもしています。その既存の住宅地の近くに新しいところを作ってしまうと、旧の集落の人たちが新しいところに移り住んでしまい、既存集落の中から空洞化をしてしまう。そういったことをさせたくないで、その旧の集落の周辺を活用したり空き地、空き家を使い家を建てていくことをあわせて今やっています。

まさに今おっしゃったように、ご自身の町会町内会の周辺で、ここならやれるよという所があれば、ぜひお伝えをしていただければと思います。

質問 2

【参加者】

・金大跡地の開発ですが、非常に大規模な開発ということで、心配しているのが今度の 8 月の大雨。加賀産業開発道路から上清水の方へ向かう市道がありますが、上清水徳山線の方から振った雨水が農地の方に流れ込み、滝のようになっていました。そのため非常に農地に被害が発生した。ということは、今既に市道に隣接している金大の土地の開発をされると、今度はその雨水がどうなるのか。開発した後の雨水が大変心配ですので、十分に雨

水対策を考えていただきたい。

【井出市長】

・これは宅地を造成していくフェーズでアスファルトかコンクリートにしていく場合には、調整池というものを設けるというルールがございます。面積に対してこれだけの水をためておく場所を確保しなさい、ということもありますのでそれに従い雨水を貯めておく、あるいは水路を作って流れていくようにすることも心がけて活動していきたいと思っておりますので、どうかご協力をお願い申し上げます。

質問 3

【参加者】

・辰口の山手は自然を守る地域に属していると思っている。ただ、今回の自然災害のように自然を守ることは大変なことだと思う。今後自然を守る具体的な施策をお聞きしたい。

【井出市長】

・本当におっしゃる通りでして、経験したことのない雨ということで、どこまでやればいいのかという思いもある。例えばイノシシの柵が壊れた。これも本当に大変なことですし、それから今年はクマがたくさん出る年だというんですが、あまりクマは最近見かけない。だから、本当にこれまでの能美市の良かった所、またまさにインクルーシブというのは、やはりそういった動植物たちとも一緒に共存することだろうという思いもしてしまして、自然を守る、動植物とも共存できるような、そんな市をこれからも作っていきたいという思いを強くしています。

5) 閉会